

# 子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Discrepancy between caregivers' reports and physicians' evaluation of causative foods in food protein-induced enterocolitis syndrome in Japan: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

医師に診断されたものと保護者の自己申告による食物タンパク誘発胃腸炎の原因食品の差異

ユニットセンター(UC)等名: 神奈川ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: International Archives of Allergy and Immunology

年: 2024 DOI: 10.1159/000535751

筆頭著者名: 梶田 直樹

所属 UC 名: 神奈川ユニットセンター

目的:

食物蛋白質誘発胃腸炎 (Food Protein Induced-Enterocolitis Syndrome; FPIES) は、消化器症状を主に呈する非 IgE 依存性の食物アレルギーである。FPIES は未診断例が多いとされており、本研究は医師に診断された FPIES と保護者の自己申告による FPIES の違いを評価することで、未診断例の特徴を見出すことを目的とした。

方法:

本研究はエコチル調査の 3 歳時固定データを用いて、1.5 歳時点の小児における、医師に診断された、または保護者の自己申告による FPIES を同定して記述を行う。加えて、嘔吐症状の原因となる食物、発症年齢のデータも収集した。

結果:

保護者が報告した FPIES 症例の有病率は 0.69%、医師が診断した FPIES 症例の有病率はそれぞれ 0.06%であった。前者の中で、最も一般的な原因食品は鶏卵で、2 番目に多い原因食品は牛乳だった(51.0% が鶏卵、17.1% が牛乳に回答し、それぞれ全原因食品の 46% と 15% を占めた)。一方で、医師が診断した症例では、最も一般的な原因食品は牛乳で、次いで鶏卵であった(57.7% が牛乳、36.5% が鶏卵に回答し、それぞれ全原因食品の 46% と 29% を占めた)。医師に診断された FPIES では原因食品の割合が牛乳、保護者が報告した FPIES では鶏卵の割合が有意に高かった( $p < 0.05$ )。

考察(研究の限界を含める):

医師が診断した症例の約 3 分の 1 が鶏卵に反応したのと比較して、保護者が報告した FPIES 症例の約半数は鶏卵が原因であった。今回の研究からは、診断されていない鶏卵による FPIES 症例が日本において以前から相当数存在していた可能性を示した。2017 年の FPIES の国際コンセンサスガイドラインの出版により、この疾患に対する医師の認識が高まり、日本における鶏卵による FPIES 診断数の最近の増加につながった可能性が考えられた。一方、FPIES の国際コンセンサスガイドラインの診断基準がエコチル調査の参加者の募集よりも最近になって発表されたこと、本研究では患者データを収集するために質問票を使用したため、これを用いた本研究での FPIES の診断は不確実であるという限界がある。

結論:

今回の研究によって、保護者から報告された FPIES 症例と医師が診断した FPIES 症例の間で、最も頻度の多い原因食品に顕著な差異があることが判明した。嘔吐を伴う小児患者では FPIES を鑑別に挙げて、特に鶏卵など、FPIES の原因食品として高頻度な食品を嘔吐の前に摂取したかどうかを、問診で聴取する必要がある。